

平成22年2月23日

卓話 松野 秀計

卓話「大陸横断世界旅行」ファイナル

旅行期間 1988年7月6日～1988年12月20日(168日間)

<渡航国>

パート1・・・中国、モンゴル、ロシア(旧ソ連)、ウクライナ(旧ソ連)、ハンガリー
チェコ(旧チェコスロバキア)、オーストリア、イタリア、バチカンシティ、ギリシャ
セルビアモンテネグロ(旧ユーゴスラビア)

パート2・・・ボスニアヘルツェゴビナ(旧ユーゴスラビア)、クロアチア(旧ユーゴ
スラビア)、スロベニア(旧ユーゴスラビア)、リヒテンシュタイン、スイス、ドイツ
オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ

パート3・・・ドイツ、フランス、モナコ、スペイン、ポルトガル

パート4・・・イギリス、モロッコ

パート5・・・番外編 中国(北京)

パート6・・・トルコ、イラン、エジプト

ファイナル・・・エジプト

計 30カ国

159日目(12月11日)

手持ちの残金が125,000円となり、今後の動きを真剣に考えなければいけない状態となった。

ディスカウントチケットを売っている旅行会社に行くことにしてみる。

ここまできたらケニアまでは行きたい。

ケニアのサファリツアーは最高と聞く。特に一面に広がるサバンナで地平線に沈む夕日は格別らしい。

ケニア行きのチケットが往復で55,000円。

日本行きのチケットが片道で68,000円、往復で81,500円(90日FIX)

この後エジプトを回るのに最低2～30,000円はかかると考えると、ケニア行きは不可能となった。

唯一の方法としてはケニアでパスポートをブラックマーケットに売り(安く見積もっても日本のパスポートは10万円で売れる)盗難されたことにして、大使館で臨時パスポートを発行してもらい日本に帰る方法だ。

しかしこの方法は余りにハイリスクなので、選択しづらい。

しょうがなく日本行きの往復チケットを買い、一度日本に帰り、出直すことで自分自身を納得させた。

早速、カイロ～東京～カイロのエジプト航空のチケットを81,500円で購入した。

残金は43,500円。

今後は節約モードで旅をしないとエジプトすら周りきれなくなってしまう。

早速今晚の宿泊費を浮かすため、夜行列車にてルクソールへ向かう(2等450円)。

161日目(12月13日)

今日は朝から宿(1泊400円)の前でレンタル自転車(1日150円、保証金2,000円もしくはパスポート)を借り、対岸にある遺跡群の散策に出かける。

優雅な帆かけ舟(フルーカ)を横目に、地元の人たちが利用している渡し船(フェリー)で約10分、ナイル川の対岸へ渡る。冬のナイル川は予想外に青く澄んでいる。対岸に渡り、のどかな一本道を自転車で走る事約1時間、突然目の前に2体の巨像が現れた。

メムノムの巨像である。当時この巨像の後ろには巨大な大神殿があったらしいが、ナイル川の氾濫で神殿はなくなり巨像だけが残ったらしい。何にもないサトウキビ畑の真ん中にそびえ立つ？そびえ座る？像はよく見るとスターウォーズの映画に出てくるクローン兵にそっくりだ。

ナイル川から走ってきた道は、ずっとなだらかな上り坂になっているため、自転車は結構しんどい。しばらく走ると民家が見えてきた。

砂地のところにレンガを積み上げて建てられた家は今にも崩れ落ちそうな家々ばかりである。岩山方面に30分ほど走ると切り立った崖の下に何か建物らしきものが見えてきた。

有名なハトシェプスト女王葬祭殿だ。エジプトの葬祭殿らしからぬあっさりした洗礼された建物で、女王様らしくおしゃれな感じの建物である。

しかしここは10年後にあの惨劇の舞台になった所である。

ここで自転車を置き、切り立った裏山を登る。この山を2つほど越えると王家の谷があるらしい。所要時間は2時間ほど??登山ルートは岩山に白線を引いたかのように印が付いている。

山頂からの景色は雄大で、ルクソールの町はもちろん、はるかかなたまで見渡すことができる。

へとへとになりながらなんとか王家の谷までたどり着いた。

谷へ下りていくと、ちょうど吉村先生(当時助教授)が来ていて見学しているところに出くわした。

帰り道、行きに来た山を2時間かけて戻る気力も体力ももうないため、王家の谷の入場口付近で思案していたら、ちょうど吉村先生たちの乗ってきたバスが動き出したため、慌てて駆け寄り、懇願し自転車の置いてあるハトシェプストまで送ってもらえることになった。

164日(12月16日)

アスワン駅の広場から朝5時出発でアブシンベルへ向かう。

8人乗りのワンボックス車には日本人、ドイツ人、スイス人、イギリス人で構成されていた。ヨーロッパの人たちはこの時期、避寒を兼ねてエジプトを旅行している。

砂漠の中を走る事2時間、地平線から朝日が昇ってきた。

黒い大地が赤に変わり、白い大地へと変わっていく姿がとても幻想的である。

しばらく走ると、ラクダの大群に出くわす。有に100頭を超えるラクダはラクダ商人が何日もかけてスーダンからエジプトへラクダを売りに連れてきているとのことだ。

悪路をひた走り4時間。アブシンベル宮殿へ到着。

真っ青に晴れ渡った空の中、真っ青に広がったナセル湖のほとりを登っていくと、目の前には4体の巨大な像が飛び込んでくる。

まさに感動！見る者すべてを圧倒するこのスケールの大きい宮殿は5ヶ月を超す旅行のフィナーレにふさわしい。

1時間の観光後、また4時間かけてアスワンへと戻る。

帰り道、アスワンハイダムと水の中浮かぶヌビア神神殿、イシス神殿を見学した。

167日(12月19日)

東京行きの飛行機は週2便、火曜日と金曜日しか飛んでいない。

13時30分出発の便だが、一週間前のチケット購入時は席が満席だったため座席がない。当日のキャンセル待ちするため、朝一(6時)のバスで空港まで行き、エジプト航空のブース前でキャンセル待ちをした。待つこと5時間、無事座席を確保。

ちっぽけな免税店で残ったエジプトリラを使い切り、財布の中の残金は5,000円札1枚きりとなった。

7月に北京を出発した時は715,000円の日本円と797米ドル(当時1ドル133円のため106,000円)合計821,000円を持ちスタート。30カ国168日間を一日平均5,000円で旅行をしたことになる。

168日(12月20日)

14時間後、無事成田に到着。

ボロボロの恰好でバックパッカーをしてきたせい、入国審査では隅から隅まで荷物と身体の検査をされた。この旅行で日本が一番ひどい扱いをされている。30分後無事解放。

空港でインフォメーションを探すが、どこにも見当たらない。空港には人がわんさかあふれていてバタバタとしている。エジプトや中近東から比べると3倍くらいのスピードで世の中が動いているように思える。

岐阜へ帰るお金のことをすっかり忘れていたため、東京在住の同級生に泣きつくことに。空港ロビーで新宿への行き方訪ねようとしても、誰も取合ってもらえない。

案内所も掲示板もなく旅行者には非常に不親切な国である。

やっとの思いで一番安く新宿へ行く方法を教えてもらいリムジンバスで新宿へ。

新宿に着いても目が回るくらいの人多さと人の動きの速さで、気持ちが悪くなってきた。エスカレーターに乗るタイミングずれて乗れなかったり、地べたに座っていると奇怪な目でみられたり、東京なんて大嫌いだ〜。

1時間後、高校の友人と無事合流。ほっとした思いからか涙がこぼれてきた。

高校を卒業し中国へ留学してから2年と4カ月、日本では想像もつかない生活を送ってきました。

高校3年生の5月、母と何気なく読んでいた朝日新聞に掲載されていた中国留学の記事が発端となり、私の人生が大きく動き出しました。

本当に貴重な経験をさせていただいたことに、大変感謝してます。

7回の長きにわたる「大陸横断世界旅行記」卓話を、これにて終了させていただきます。

ありがとうございました。